

防汚性試験

試験概要・目的

ムク木材の自然な風合いを形成するには従来、オイルフィニッシュが多用されているが、汚れやすいといわれている。本試験は各種仕上げ含浸塗料の防汚性能を比較検証することを目的とする。

本検証では生活汚染物質を用いてサンプルを汚染し、中性洗剤、溶剤で拭き取ることにより各塗料の汚れの付き具合、落としやすさを調査する。

試験基準・方法

・試験基準

社内基準

・試験方法、手順

- ・各種木材（オーク、ウォールナット、アッシュ、チーク）に対象塗料（グラノール、ウレタンS、オイルS、オイルO）を含浸塗布し、十分に乾燥する。
- ・試験体に汚染物質により汚染後、中性洗剤、溶剤（アセトン）で拭き取りを行い、拭き取り後の外観（汚れが落ちるか、表面が変質しないか）を評価する。



左写真は汚染物質。左から油性ペン、クレヨン、シャチハタインク、醤油、イソジン（水道水にて5%に希釈）の計5種類。



汚染試験状況（左写真）

汚染後、液状のものは5時間後、それ以外は24時間後に中性洗剤、溶剤（アセトン）による拭き取りを行い評価する。

試験状況（オーク）

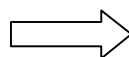


未処理

中性洗剤
処理

溶剤処理

評価前



評価後

総合試験結果 (4種木材の平均)

中性洗剤処理結果

	グラノール	ウレタンS	オイルS	オイルO
油性ペン	×	×	×	×
クレヨン	○	△～○	×	×
インク	○	×～△	×	×
醤油	○	○	▲	▲
イソジン	△	△～○	▲	▲

溶剤 (アセトン) 処理結果

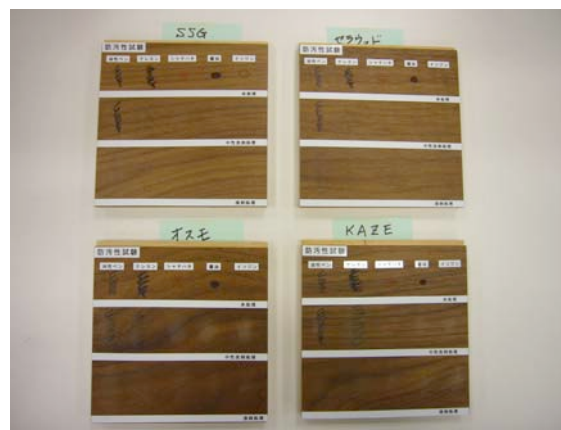
	グラノール	ウレタンS	オイルS	オイルO
油性ペン	○	▲	×～▲	▲
クレヨン	○	▲	×～▲	▲
インク	○	▲	×～▲	▲
醤油	○	▲	▲	▲
イソジン	△～○	▲	▲	▲

判定基準

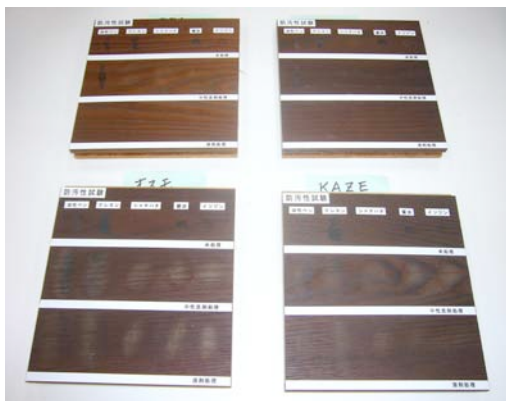
マーク	判定
○	汚れが落ちている
△	僅かにシミが残る
▲	洗浄により表面が変質
×	汚れが落ちない



<オーク>



<ウォールナット>



<アッシュ>



<チーク>

総括

本検証では**グラノール**に優れた防汚性を確認することができた。中性洗剤でどこまでの汚れが落とせるか、また溶剤を使用した場合にはどうかはメンテナンス性に大きな影響があり、**グラノール(S S G)**の優れたメンテナンス性が確認できた。

